



ARARAT COLLECTION
VOL. IV

風格のあるカーペットで、空間をグレードアップしましょう！

壁に絵を飾るように、床には風格のある美しいカーペットを敷きましょう。

歴史と伝統から生まれた、とっておきの一枚。それは、あなたのお住まい、店舗、オフィス、ホテルやミュージアムなどの空間を、劇的に変えます。

日本のショップ「青山キリムハウス」では、イスタンブールにある本店「アララット・カーペット」の支援を背景に、常時、リーズナブルな価格の商品を豊富に取り揃えて、皆さまのご来店をお待ちしております。また、キリムハウスのホームページで、私たちの仕事の全容をご覧くださいこともできます。

店舗やホームページで、質の高い既存品やレアなアンティーク、さらにご指定のサイズや色、紋様に合わせた特注品なども承っております。また、すでにお持ちのカーペットの修繕やクリーニングも、高度な専門技術で対応させていただきます。

ただし、絹製カーペットは、ウールのように強くないので、生地が擦り切れたり変色することもありますから、クリーニングはお勧めいたしません。

アジアの西の端にあるトルコと、東の端にある日本、その両方に拠点を置く私たちの強みは、注文生産、販売、修繕やクリーニングなどのサービスを、世界標準でお届けできることです。これは、グローバルな企業だからこその強みといえましょう。

加えて、近年、私たちは、中東から中央アジアに広がる、カーペットベルトと呼ばれてきたエリアの伝統の復興再生に挑んでいます。本物は、時間が経っても色あせず、時を経るほどに新たな感動を与えます。工業化による大量生産とは一線を画した、21世紀のアンティークとなる逸品作りこそ私たちがめざしているものです。そのためには、伝統技術の再生、作り手の養成、そして、お客様の共感が欠かせません。

No Carpet No Life ! 世界に二つとない美しいカーペットによって、新しい空間の創造に挑戦しませんか？

羊毛を生産して、古くからカーペットを作ってきた産地の分布です。カーペット・ベルトと呼ばれています。古代からの交易の道「シルクロード」に重なっていることから、生産と流通がセットになって産地形成をしてきたことがわかります。

11世紀に始まった十字軍による中東侵略をきっかけに、カーペットはヨーロッパ社会に知られるようになりました。そして、集散地となったトルコのイスタンブールは、カーペット・ベルトの各国、各産地に熾烈な産地間競争をさせるほどの巨大な存在になったのです。

印をつけた3箇所は、私たちが伝統の復興再生に取り組む3つの産地の場所です。イラン北西部のビジャール（表紙に掲載）、コーカサスのシルバン、かつてエジプトにあったマムルークです。

FOREWORD

Hakan Karar カラル ハーカン



Cover illustration

Bidjar Garden Rug (208cm x 390cm)

表紙は、2007年の国際コンテストで最優秀賞をもった、ビジャールのカーペットです。紋様や色は、伝統の技術を現代に復活して再現した、まさに21世紀のアンティークと呼ぶにふさわしい、大型の逸品です。

Title page

右ページの写真は、カーペットを織る女性たちの作業風景です。この織り機では、通常、3人が並んで作業をします。屈託のないおしゃべりが続きますが、手の動きは止めません。





Oriental Rugs & Kilims

Our Carpet Production - Design

オリエンタルラグ&キリム
私たちのカーペット生産とデザイン

私たちのめざすもの — 伝統の継承と創造

基本的な考え方は、「伝統の継承と創造」です。言い換えると、アンティークのコレクターに選ばれるような「21世紀のアンティーク」生産です。

アンティーク、すなわち機械を使わない手仕事の時代のカーペットには、作り手の熱意や技量、個性が溢れていて、同じものは二つとありません。また、糸や染料などの良質な自然素材を、潤沢に手に入れることができた時代背景も、今とは大きく違っています。近代化によって失った過去の素晴らしい伝統を、現代にどう再生できるか。私たちの挑戦は、いま始まったばかりです。

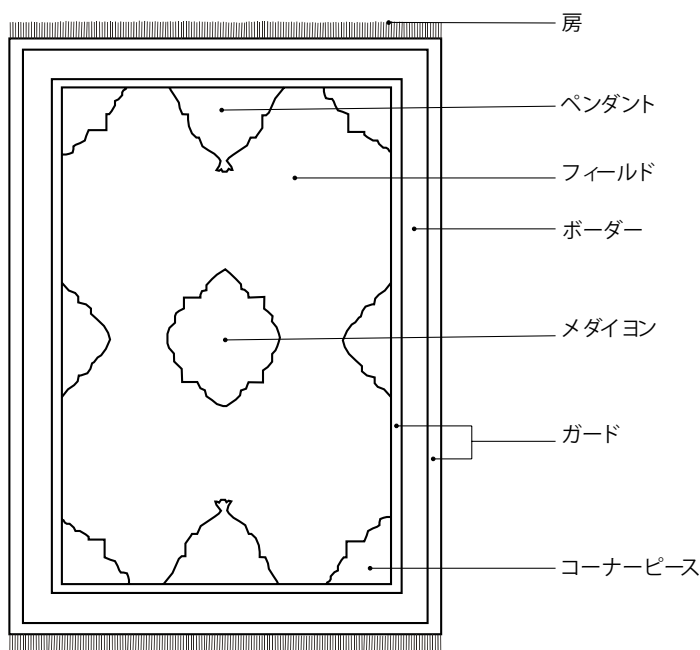
ここでいうアンティークとは、100年以上前のものを指しますが、希少価値が高いために、主にコレクターピースやミュージアムの所蔵品として、一般に手の届かないところにあります。売買はサザビーなどのオークションハウスによることが多く、一般のカーペットショップで扱うのは稀と言ってよいでしょう。

アンティークものを買われる場合は、信頼の置けるショップを選んでください。また、私たちのショップにお出かけいただき、アンティークものを手にとって、感触をご自身で確かめられことをお勧めします。

近代化以前に、広大なカーペット・ベルトから、ヨーロッパに向けて大量に輸出されたカーペットが、なぜ、アンティークとして多く残らなかったのでしょうか。当時も、カーペットの価格は希少性もあって、非常に高価であったにもかかわらずです。

その理由として、カーペットは室内に敷いて、その上を靴で歩くという西欧の生活上、数百年にわたる使用の後には、汚れたり、すり減ったりして廃棄さざるをえなかったということが挙げられます。ヨーロッパの名画の中には、カーペットがよく描かれています。そこから往時のデザインを推測して研究することについては、このシリーズで以前ご紹介しました。

失われがちな、良き時代の伝統を掘り起こして、現代に繋ぐ。これが私たちのデザイン・ワークの大目標です。



Parts of a medallion rug
カーペット各部の名称

カーペットの模様は、このような構成で成り立ち、それぞれに名前がついています。どの部分にどんな紋様、色彩の糸が織りこまれているかを研究することによって、産地の識別や図柄の伝搬などが明らかになります。



上の紋様は右ページの写真のボーダーにあるものです。同じものが繰り返し並んでいますが、細かく見ると、手書きで型紙を作っているのが、ひとつひとつが微妙に違うことがわかります。コンピューターを使ったコピーでは出せない、手作りならではの見飽きない味が出ているのです。



185 x 252 cm

この2枚重ねの写真は、上が完成品である本物のカーペット、下はそれを織る段階で作成し、実際の作業に使った実寸の型紙です。ミュージアムにアンティークとしてしか残っていないカーペットを再現したものです。

前ページでカーペットを織っている写真をご覧いただきましたが、まだ織り込んでいない白い縦糸の下に、型紙が置かれています。そこには、縦横に線が入り、ひとつひとつのグリッドに、どんな色の糸を使って、何個の結び目を作るかがわかるようになっています。織り手は型紙の指示を見ながら、忠実にそれを再現します。

型紙は設計図であり、作業指示図であり、また、労賃を計算する根拠にもなります。また、型紙は実寸で作りますが、全体、その半分、あるいは4半分で作られるケースもあります。このカーペットの紋様は、左右、上下ともにシンメトリーなので、型紙を置く位置を左右や上下に置き換えても、問題はありません。

完成品と型紙を重ねて示した理由は、紋様が全く同じではなく、太さや長さが微妙に違っていて、二つとして同じものがないことを見ていただきたかったからです。型紙も手描きであり、織りも手作業であること。使う糸が手紡糸なので、太さを合わせたつもりでも、わずかに糸の凹凸が違います。機械のように寸分違わぬ出来栄でないからこそ、独特の風合いが生まれるのです。

私たちの挑戦 — アンティーク再生技法の飽くなき追求

現在、私たちは、世界中のオークションハウスの情報に目配りしています。またニューヨークのメトロポリタン、ロンドンのビクトリア&アルバートなどの有名美術館はもちろん、個人のコレクションを収蔵する小規模な専門美術館までもチェックして、世界の逸品情報を集めています。そして、そこから技術やデザインの情報を学びとります。

どのような紋様で構成されているか。化学染料の開発は1856年以降なので、それ以前のカーペットに用いられている植物や動物、鉱物などの自然染料の素材は何であるか。さらに染め方の技法も研究します。

その上で、新しく作ろうとする完成品の実寸に合わせた、縦横に線の入った罫線紙を用意し、そこに紋様を置き、型紙にあたる「図柄ボード」を作ります。これらの作業については、去年の「ARARAT COLLECTION VOLⅢ」に書きましたので、ご参照ください。

図柄を移すにあたっては、縮小や拡大はしません。カーペットの表面は、内側にフィールド、外側にボーダーと呼ばれる部分があり、それぞれに様々な紋様が織り込まれています。新しく作ろうとするサイズに合わせて、それらの紋様の一部を切り取って使います。

現存するものが、世界中の美術館に数枚しかない「マムルーク」も、この技法によって、私たちは現代に復活させることができました。



248 x 306 cm



353 x 532 cm



358 x 625 cm

私たちが再生を手がけているひとつが、エジプトにかつてあったマムルーク朝のカーペットです。マムルーク朝は、別名を奴隷王朝と呼びますが、その理由は、建国したスルタンが奴隷身分の騎兵の出身だったからです。

彼らがコーカサスからエジプトに移って、王朝をつくったのは1250年。最盛期にはシリアからアラビア半島の一部も併合し、その過程で様々な地方の文物を取り入れ、特色のある文化を築きました。

王朝の滅亡は1517年。それと同時にマムルーク朝が生みだしたデザインは、完全に途絶えましたが、近年、遺跡の発掘が進み、様々な遺物が出土して研究者の注目を集めています。

マムルーク・カーペットのオリジナルは、世界のミュージアムに数点残るのみです。出自がカーペットの産地として知られたコーカサスなので、そのカーペット文化にエジプトの幾何学紋様を取り入れて独自のものを作り出しました。ここに載せた5枚のカーペットは、私たちが作ったものですが、共通した紋様を生かしながら、その配置を変えたり、様々なサイズにした例です。

私たちがめざしているのは、いわゆるレプリカをつくることではありません。その産地ならではの特色（紋様、色調、素材、織り方など）を生かしながら、近代化（機械化、化学染料など）ではなく、伝統に改良や創造を加えて、現代の新しい作品を作ることを心がけているのです。実は、かつてのアンティーク自体もまた単に全く同じものを作っていたわけではなく、時代の中で絶えず改良や創造を加えてきたのです。

欧米では、カーペットを部族型 (Tribal Rug) と宮廷型 (Court Rug) に大別することがあります。

部族型は、いわば自家用といえるもので、もともと遊牧民の暮らしの中で作られてきたタイプです。地域や時代を特徴付ける紋様を確認できる一方、ウールの紡ぎ方や染めなどのちょっとした工夫で、他にない独自性を生み出しています。カーペット・ベルトと呼ばれる広大な地域に多様な産地が分布しています。

もう一つの宮廷型は、財力のある王侯貴族の宮殿に付属した専門の織り場で、贈答品や商品として作られた大型のカーペットです。立地する場所の伝統的な紋様を使い、色のコンビネーションを変えたりしても、その基本的な要素を守りながら、数世紀にわたって伝統を継承してきました。

例えば、中央アジアをルーツとするインドのムガル帝国の都市アグラにある工房では、当時の東インド会社を介して、相当数の製品が作られており、いまもイギリス本国で見ることができます。また、京都祇園祭の山鉾の懸装に用いられているのも当時のインドで作られたものです。

現在、私たちが手がけているのは、かつてエジプトにあったマムルーク、イラン北西部に残るビジャール、コーカサスのシルバンの3つです。いずれも紋様、色調ともにユニークです。マムルークはすでに途絶えていますし、他の2つもアンティーク・マニアの垂涎の逸品です。これらをどのように再生するか、どのように伝統を継承するかを、作品を通じて、少しずつ日本に紹介していきたいと思います。



536 x 678 cm



139 x 551 cm

このカーペットのオリジナルはニューヨークのメトロポリタン・ミュージアムにあり、コーカサス地方で織られた、宮殿で使われていたと思われる大型のものです。それをもとに、私たちは以下のような2枚を再生しました。左側はオリジナルと同じサイズ、右側は現代の生活にあわせて、使い勝手の良いサイズに変えたものです。紋様のサイズはオリジナルのまま変えていません。色彩も自然染料を使って、オリジナルの色調を作り出しました。

欧米のミュージアムでは、収蔵品であるカーペットの情報を、デジタルで詳細に公表しています。それを手がかりにすると、復元、再生ができます。美術品は死蔵するのではなく、活用が必要だ、とはよく言われますが、カーペットの場合はそれが可能になっています。



351 x 696 cm



250 x 356 cm

最初のページにあるカーペットを織っている写真を見てください。実はこのカーペットを織っている場面です。写真を撮った時には、いつまで経っても終わらないと心配していましたが、ついに上のように見事に完成しました。

機械生産で失われたもの

大量に安く売るために、機械力を導入して、同じものをたくさん作る。これが20世紀を牽引した近代化の主流でした。

近代化、機械化で私たちが失ったものを挙げてみましょう。自然染料に変わる化学染料。それによって、数世紀も色あせない、堅牢な自然染料を失いました。手紡ぎに変わる機械紡ぎ。これによって、空気をたくさん含んで、時に細く、時に太くなる手紡糸の良さを失いました。手織りから機械織り。これによって、紋様やそのコンビネーションを自在に変えることで魅力を生み出していたものが、スタンプを押したような単調なものに変わりました。

原材料を、羊毛ではなく、化学繊維で代替する動きもあります。空気を含み、時に湿度も調整するウールの代わりを化学繊維に求めることができるはずありません。機械から吐き出された均質な糸では、織地が平板で面白みにかける上に、温もりのないカーペットになってしまいます。

もちろん機械織りのメリットもたくさんあります。一般のホテルやオフィスなどでは、安価に手に入るカーペットも必要です。

ただし、愛着をもって、代々継承していく逸品とは言えません。

21世紀のアンティーク

人間が手技を極めた時代に戻ることはできないだろうか。それを追求することで、伝統の良さを味わうことできないだろうか。

そのための私たちの試行錯誤を、この冊子でお伝えできれば幸いです。



Belgium Carpet Design Cart on Milimetric Paper
ベルギー・カーペットの型紙

これは、ベルギー・カーペットの4半分の型紙です。古いように見えますが、寸分と違わない模様を繰り返していることから、機械を使って作ったものであることがわかります。



1

WILLIAM MORRIS RUG

190 x 285 cm



2

DRAGON RUG

255 x 372 cm



3

DRAGON RUG

213 x 310 cm



4

MAMLUK RUG

273 x 368 cm



5

MAMLUK RUG

248 x 302 cm



6

MAMLUK RUG

277 x 372 cm



7

MAMLUK RUG

250 x 315 cm



8

MAMLUK RUG

154 x 280 cm



9

BIDJAR RUG

183 x 274 cm



10

BIDJAR RUG
242 x 285 cm



11

BIDJAR RUG
249 x 304 cm





13

BIDJAR GARDEN RUG

136 x 228 cm



14

NORTHWEST PERSIA RUG

271 x 350 cm



15

SHIRWAN RUG

123 x 258 cm



16

SHIRWAN RUG

118 x 154 cm



17

SHIRWAN RUG

120 x 165 cm

ARARAT COLLECTION VOL IV
アララット・コレクション Vol. IV
by Hakan Karar カラル ハーカン



Organized by

青山キリムハウス

(株式会社アララット・インターナショナル)

〒150-0002

東京都渋谷区渋谷 2-8-3-1F

Tel: 03-5467-2622

E-mail: info@kilimhouse.com

Url: <http://www.kilimhouse.com>

AOYAMA KILIM HOUSE

(ARARAT INTERNATIONAL CORPORATION)

8-3-1F, Shibuya 2-Chōme,
Shibuya, Tokyo,
Japan 150-0002

© Hakan KARAR, Tokyo, November 2019



Pazyryk Rug - Hermitage Museum Saint Petersburg

最古のカーペット
今から2500年前の世界最古のパジリク・カーペットの前の筆者(エルミタージュ美術館)

